工業製品をそのままBtoC製品に

特殊ばねがマネークリップ

美しさと機能性に着目

自動車部品がクリップに―。松村鋼機（綾瀬市吉岡東、☎０４６７・５０・０５６１）は、同社で製造販売する工業用の特殊ばねの“美しさ”と“機能性”に目を付け、一般消費者向けのステーショナリーアイテム「ウェーブクリップ」シリーズを展開。このほど、同ブランドの新商品として自動車部品の「コイルドウェーブスプリング」をベースにしたマネークリップを発売した。

松村鋼機

自動車部品のコイルドウェーブスプリングは、波打ちながらせんを巻く特殊形状が特徴。波の一つ一つに“反力”があり、低いスプリングでも、荷重に対する耐性が強い。こうした特徴をマネークリップに生かした。

全国展開する大手雑貨店で展示販売をしたところ、予約販売が出るほどに。今後、販路開拓を進めていくという。

同社では５年ほど前から工業用ばねをステーショナリーアイテムとして商品化できないかとプロジェクトを立ち上げ、「ウェーブクリップ」ブランドで商品ラインナップを拡充させている。

ステーショナリーアイテムはいわばＢｔｏＣ製品だが、工業用ばねの生産設備をそのまま活用するため、特別な設備投資はせずに参入を果たした。

「通常のスプリングでは、厚すぎるものは挟めず、薄すぎるものだとうまく固定されません」と松村朗社長。その点、工業用ばねをベースとした同社のクリップは、ボールペンが挟め、薄い紙を挟んでもすり抜けることがない。

このほど発売したマネークリップは大小２タイプ。「大」は外径６０ミリ（税込４８６０円）、「小」は外径５０ミリ（同４６４４円）。

現金だけでなく交通系ＩＣカードやチケット類も挟め、そのまま駅の改札ゲートでタッチして利用することも可能だ。記念品やプレゼントなどを想定している。

粒子群の特性を計測

サポインの成果製品

横浜国立大学発ベンチャーのフローテック・リサーチ（横浜市緑区長津田町、☎０４５・９８２・１６４８）は、浮遊する微粉やマイクロバブル、液滴といった粒子群の流れの速度や粒子の大きさなどを簡単に測定できる「ＰＩＡプローブ」を製品化した。経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン、２０１５年度）の採択成果製品だ。

プローブは小型で持ち運びできるサイズ。「そこに置くだけ」で計測が可能になるという。例えば、養殖場の水中の気泡の量や流れを計測したり、自動車の内燃機関におけるオイル噴霧液滴の特性を調べたりするなど、さまざまな用途を想定。耐水性や耐圧性、耐摩耗性、クリーニング機能も持っている。年間1、2台の販売を計画する。

■熱と流れの専門家集団

横浜国大の西野耕一教授（同社会長）の研究成果を事業化し、０５年11月に設立した社員数約10人のベンチャー。さまざまな流体を“可視化”し、その特性を解析するサービスを提供。また、各種の流体計測システムの製造販売も手掛けている。取引先としては大手自動車メーカーや電機メーカー、大学などが名を連ねる。

ポータブルで置くだけ

フローテック・リサーチ

同社の事業を分かりやすく例えると、自動車の燃費向上技術の進展が挙げられる。今や各メーカーがこぞって開発にしのぎを削る燃費技術だが、同社の技術により内燃機関での燃焼の流れなどを可視化、それらを解析することで新型の開発に貢献している。あらゆる熱や流体を可視化した上でその特性を調査、解析する企業は「国内でも当社のみ」（西野会長）としており、同時に専門知識を生かした熱の計測を行っている。

水処理技術を世界に

日之出産業

日之出産業（横浜市都筑区池辺町、☎０４５・５０７・３０３１）は、日本発の水処理技術を世界へ発信する。海外からのインターン生の受け入れを強化しており、この２年間でアフリカ諸国から計１０カ国２２人を同社に迎えた。加えて、環境問題が深刻なフィリピンでは２０１７年度ＪＩＣＡ案件化調査に採択されるなど、技術をグローバルに広めようとしている。

排水処理薬剤を中心に、独自技術「日之出マイクロバブラー」を使用した分散菌処理システムなどを展開。国内での取引先は２０００社を超える。同技術は「分散菌」と呼ばれるバクテリア（微生物）の製剤とともに使用するもの。排水中に投入した微生物に対して、同装置で高濃度の酸素を供給することで、微生物の活動を活発化させ、排水の分解を促す。従来の排水処理設備と比べ、半分から３分の２程度まで省スペース化でき、メンテナンスの容易さなどが客の評価を得ているという。

10カ国からインターン受け入れ

また、「多様化する排水に合わせて、その水質に合った排水処理を行うことが大切です」と藤田香取締役。排水成分を分析した上で、その水ごとに、排水処理のレシピに当たる「最適な浄化方法」を提案している。

そんな同社が現在力を入れているのが海外市場開拓。ＪＩＣＡプログラムにおけるフィリピンでのミニパイロット調査やＡＢＥイニシアティブにおけるアフリカ諸国のインターンの受け入れで水処理技術の伝承や衛生指導員育成も目指している。

「今はまだＣＳＲ（企業の社会的責任）活動にとどまっていますが、国際協力をすることで、企業価値が高まります。インターン生が帰国して活躍することで、当社の技術の普及にもつながるはずです」と藤田取締役は話している。

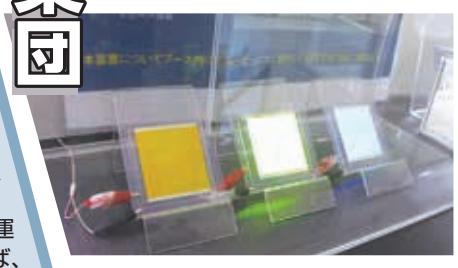
有機ＥＬ技術 最先端支える

真空装置のスペシャリスト集団

有機ＥＬ生みの親 鄧教授も視察

エイエルエステクノロジー（相模原市中央区上溝、☎０４２・７１３・３０１８）は、有機ＥＬ（エレクトロ・ルミネッセンス）技術の発展を支える。今やスマートフォンやテレビといったデジタル家電分野などで普及する有機ＥＬだが、同社では最先端研究に欠かせない真空装置を開発。従業員２０人の企業規模ながら、有機ＥＬの生みの親として世界的に知られる鄧（タン）青雲・米ロチェスター大学教授も視察するほど存在感を高めている。

薄くてフレキシブル、そして低消費電力の有機ＥＬは、市場ではデジタル家電のみならず、照明や太陽電池、トランジスタなど、さまざまな分野で応用製品が展開されている。



有機ＥＬは、材料を高真空状態で加熱・蒸着させて基板表面に薄い膜を付着させて形成する。現在、日本や韓国などの各国で研究開発競争が繰り広げられているが、研究時に必要になるのが有機ＥＬデバイスをつくるための真空装置だ。

「当社は真空装置のスペシャリスト集団です」と青島正一社長。同社によると、真空装置の部品点数は約１万点。それを社内では手作業で組み立てているという。価格は７００万円から１億円する装置もある。

ＡＬＳテクノロジー

大学や研究機関、大手企業の研究開発部門などに対し、真空装置の設計から組み立てまでを一貫して提供。納入先として名を連ねるのは理化学研究所や山形大学、東京大学、九州大学など５０以上。いずれも直取引だ。

また、真空装置のみならず、有機ＥＬの材料を精製する装置から評価装置まで製造。すべての工程を網羅している。

■中国市場を開拓

海外展開にも力を入れる。このほど台湾の日系商社と業務提携し、中国市場でも装置の販路を開拓する。「中国は有機ＥＬ技術を採用したスマートフォンやテレビの生産が盛り上がっています。現地の電機メーカーに対して、関連装置の需要があります」と青島社長。初年度は２０台程度販売を見込んでいる。

会社としての対応

社員や社員のご家族または、取引先などに不幸があった場合、企業としてどのような対応をされていますか？　個人的なお葬儀マナーはご存じかと思いますが、いざ社長として、会社としてどう対応すれば良いのか、分からない場合はありませんか。弊社（清水誠葬具店）は、横浜で創業77年の葬儀社です。私は以前、料理人として元町で勤めておりましたが、家業である葬儀社の三代目となるべく一念発起し、入社してはや15年が経ちます。いろいろな会社様とお付き合いさせていただいた中での実際によくあるご質問や事例、私自身の失敗談などをご紹介させていただきながら、皆様に有益な、大事な場面の心得として「社長さんの為のお葬式マナー」をテーマに次回からお話しさせていただきます。どうぞお付き合いのほどよろしくお願いいたします。

（清水誠葬具店副社長・清水ふじ代）

社長さんが知っておきたい
冠婚葬祭のマナー